

學流  
必接

武谷次郎編  
明治文鑑

乾

東京		
大田本館		
第三室		
二冊	四架	五函
號	架	函

特34

414

079649-001-9

特34-414

明治文鑑

武谷 次郎/編

乾

M11.6

DAC-3707



特34

467

414

武吉水郎編輯

學徒

必携

# 明治文鑑

福州

福海堂藏板

學徒必携 明治文鑑卷之一目錄

手簡之部

- ① 年始文
- ② 暑中遣人文
- ③ 麦秋遣人文
- ④ 菊見招人文
- ⑤ 慰疾病人文
- ⑥ 遣久不逢人文
- ⑦ 賀安産文
- ⑧ 賀婚儀文
- ⑨ 約春游文
- ⑩ 梅雨中遣人文
- ⑪ 納涼誘人文
- ⑫ 寒中遣人文
- ⑬ 訪不逢翌日遣文
- ⑭ 乞医求治療文
- ⑮ 謝響應文
- ⑯ 賀養子文

學徒必携

明治文鑑卷之一

一一一

特34

414

學徒必携 明治文鑑卷之一目錄

手簡之部

- ① 年始 文
- ② 暑中遣人文
- ③ 麦秋遣人文
- ④ 菊見招人文
- ⑤ 慰疾病文
- ⑥ 遣久不逢人文
- ⑦ 賀安產文
- ⑧ 賀婚儀文
- ⑨ 約春游文
- ⑩ 梅雨中遣人文
- ⑪ 納涼誘人文
- ⑫ 寒中遣人文
- ⑬ 訪不逢翌日遣文
- ⑭ 乞医求治療文
- ⑮ 謝響應文
- ⑯ 賀養子文

- ⑫ 與為養子人文
- ⑬ 與小學卒業人文
- ⑭ 錢洋行友人文
- ⑮ 錢赴任文
- ⑯ 與歸省文
- ⑰ 遣湯治人文
- ⑱ 贈筆文
- ⑲ 回文
- ⑳ 吊文
- ㉑ 賀喬遷文
- ㉒ 勸入學文
- ㉓ 賀友人就官文
- ㉔ 慰致仕之人文
- ㉕ 遣赴商業文
- ㉖ 借書藉文
- ㉗ 借金子文
- ㉘ 乞新聞遞送文
- ㉙ 靈祭招親屬文

諸願屆之部

- ① 名前換相統願
- ② 實印彫替願
- ③ 家出者限日屆
- ④ 寄留屆
- ⑤ 止宿屆
- ⑥ 養子願
- ⑦ 縁組送籍願
- ⑧ 隠居家督相續願
- ⑨ 縁組願
- ⑩ 所勞屆
- ⑪ 轉宅屆
- ⑫ 出產屆
- ⑬ 家出者屆
- ⑭ 後籍願
- ⑮ 他國出稼願
- ⑯ 送籍願
- ⑰ 寄留送籍願
- ⑱ 迹式願
- ⑲ 死家ヨリ死亡屆
- ⑳ 旅行屆
- ㉑ 妻離縁屆

- ①八 盜難届
- ①九 拾物届
- ①十 芝居役者渡世願
- ①十一 失火届
- ①十二 送籍受取書式
- ①十三 何商開業願
- ①十四 增渡世願
- ①十五 新規建家願
- ①十六 地券書替願
- ①十七 開墾願
- ①十八 被盜物届
- ①十九 落失届
- ②〇 棄兒届
- ②一 燒失家数并失火手續書
- ②二 家塾開業願
- ②三 渡世願
- ②四 米商會創立願
- ②五 板田願
- ②六 荒地開拓願
- ②七 川中拜借願

- ②八 川中拜借返上届
- ②九 道路修繕成就届
- ③〇 人力車讓換願
- ③一 川舟檢印願
- ③二 藝妓稼鑑札願
- ③三 出版届并版權願
- ③四 他人之著作ヲ続成シタル出版届若クハ版權願
- ③五 訴訟之式
- ③六 答書ノ式
- ③七 代人ヲ出ス時勸解書式
- ③八 堤防修覆願
- ③九 人力車檢印願
- ④〇 宿屋開業鑑札願
- ④一 娼妓稼鑑札願
- ④二 既刻圖書版權願
- ④三 訴狀表紙ノ式
- ④四 答書表紙ノ式
- ④五 勸解訴訟願書式
- ④六 委任狀書式

- ㊦ 区内引合書式
- ㊦ 諸奥行願届
- ㊦ 軍談奥行願
- ㊦ 說教會坐届
- ㊦ 懲役場へ差入物願
- ㊦ 懲役満期受書
- ㊦ 町村預受書
- ㊦ 耕牛市願
- ㊦ 奉職中看病願
- ㊦ 商船入港届
- ㊦ 洋行願
- ㊦ 歸朝届
- ㊦ 学費金献納願
- ㊦ 發明器械專賣願
- ㊦ 電信技術生徒入寮願
- ㊦ 巡查志願書
- ㊦ 入学願
- ㊦ 講習願
- ㊦ 教導團入学願
- ㊦ 碓泊願

㊦ 服忌届

㊦ 辞職願

㊦ 金負債用証

卷之二目錄

紀事之部

- ㊦ 春游紀
- ㊦ 一天長節紀
- ㊦ 蘭ヲ採ル紀
- ㊦ 稚松ヲ曳紀
- ㊦ 桃林ニ遊フ紀
- ㊦ 馬車ニ乘紀
- ㊦ 郵便ノ事ヲ紀ス
- ㊦ 瓦斯燈ノ事ヲ紀ス
- ㊦ 鐵橋ノ事ヲ紀ス
- ㊦ 鯉ヲ捕ヲ見ヲ紀ス
- ㊦ 家園櫻ヲ見ヲ紀ス
- ㊦ 博覽會ヲ見ヲ紀ス

- ⑤ 早梅ヲ搜ヲ紀ス
- ⑥ 湖邊ニ遊ヲ紀ス
- ⑦ 小学校ノ事ヲ紀ス
- ⑧ 病中感ヲ紀ス
- ⑨ 四方拜紀
- ⑩ 招魂祭ノ紀
- ⑪ 雨ノ事ヲ紀ス
- ⑫ 写真ノ事ヲ紀ス
- ⑬ 杜鵑花ヲ見ヲ紀ス
- ⑭ 北窓ノ午眠ヲ紀ス
- ⑮ 瓶中挿晚梅ヲ紀ス
- ⑯ 湖上ニ遊ヲ紀ス
- ⑰ 卜居ヲ紀ス
- ⑱ 田家秋晚ノ事ヲ紀ス
- ⑲ 雪夜讀書ノ事ヲ紀ス
- ⑳ 水ヲ愛スル紀
- ㉑ 蒸氣船ノ事ヲ紀ス
- ㉒ 公園地ニ遊ヲ紀ス
- ㉓ 二洲烟花ヲ見ヲ紀ス
- ㉔ 湊川神社楠公廟ノ紀

① 旅程早發紀

論說之部

- ② 算ハ可學說
- ③ 健康ヲ保ノ說
- ④ 電信機ノ說
- ⑤ 可知法律說
- ⑥ 雷ノ說
- ⑦ 平生ヲ慎ム可キ說
- ⑧ 小学校新築ノ說
- ⑨ 陽曆ノ說

⑩ 新年宴紀

- ⑪ 四方拜說
- ⑫ 養生ノ術
- ⑬ 新聞ノ說
- ⑭ 愚者雖勤勉ス可キ說
- ⑮ 庸医魚毒ニ中ル說
- ⑯ 小学業ハ必ス學フ可キ說
- ⑰ 潮ノ満可ノ說
- ⑱ 物ハ偏愛ス可ラサル說

- ① 上同
- ② 信義ヲ重ス可キ説
- ③ 人ハ偽言ヲ可ラス説
- ④ 藝能ハ擇ブ可キ説
- ⑤ 狡猾ハ身ノ害トナル説
- ⑥ 訴ハ証ヲ取ル可キ説
- ⑦ 小事ヲ輕忽ニス可ラサル説
- ⑧ 材器ハ惜メス用ユ可キ説
- ⑨ 傲リハ生シ易キ説
- ⑩ 光陰ヲ惜ム説
- ⑪ 其分ヲ守ル可キ説
- ⑫ 不義ノ賤ハ益ナキ説
- ⑬ 人ヲ誹謗ス可ラサル説
- ⑭ 藝ハ身ヲ助クル説
- ⑮ 友交ハ撰フ可キ説
- ⑯ 偽飾ハ為ス可ラサル説
- ⑰ 賤業ヲ耻ソ可ラサル説
- ⑱ 樂ハ苦ノ種トナル説
- ⑲ 世間ヲ知ラヌ者ノ説
- ⑳ 同上

⑳ 勤勉スル者ニ貪ナキ説

諸願届之部

- ① 抵當物ヲモツテ金借用証
- ② 預証
- ③ 年賦返済借用証
- ④ 建家書入質之証
- ⑤ 建家賣渡証
- ⑥ 地所質入証
- ⑦ 委任状ノ事
- ⑧ 屋敷賣渡証
- ⑨ 田畑賣渡証
- ⑩ 養子約定証
- ⑪ 養女約定証



▲名前換相續  
御願

一私儀何商之  
者ニ御坐候處  
實父某去ル何  
年何月病死仕  
亡迹家督相續  
仕候ニ付テハ  
私名前ニテハ  
遠隔ノ通信不

學徒  
必携

明治文鑑卷之一

筑前武谷次郎輯

年始文

新年  
吉  
正月  
日

風不可  
際  
関  
下

便理ニ付何兵衛 何三郎  
 改名致シ相  
 續ノ儀奉願上  
 候尤先代ノ實  
 印相用申間敷  
 候已上  
 何大區何小區  
 何町村何丁自  
 亡何兵衛長男 何三郎二男  
 年月日 何誰印

益也清祥ヲ杯賀  
 次ニ故方依旧  
 孫也申投神  
 為ニ祝詞扇子一函  
 進呈付申受納之

前書之通願出  
 候ニ付奥印仕  
 候也

區戸長  
 何誰印  
 何府縣知事宛  
 出產御届  
 幾男某  
 右者本月何日

是幸也

同  
 改曆ノ吉社四海全泰伏シテ惟ハ閣下  
 福祉亨祥林栢賀々々朝来璋坤氣敬ニシ  
 テ万象新ヲ迎フ加ルニ西南ノ凶賊悉  
 ク皆誅戮セラレ實ニ明治十一年春王  
 ノ一月豈慶暢セサランヤ閣下極メテ  
 新年ノ佳什アラン拜吟仰クトコロナ  
 リ

何時出生仕候

ニ付書面名付

候間戸籍ニ御

漏入可被下候

此改御届申上

候也

何大小區如前

年月日何誰印

伍長

何誰印

答古文

如束意改曆之末

社都郵日奉並西角

福力影之由直祝改

次ニ賚属一月廿之日

何大小區

町用或村用係御中

▲實印彫替御願

願

一〇印鑑

一私儀所持之

印判相損シ候

ニ付書面印鑑

ノ通更ニ印形

越年傳乞市板氣

正祝河とそ佳美

扇子一函形之龍送

少海盛細仕先々

由礼正解之形永表

字在必... 明... 卷之一

彫替向後相用

申度奉存候ニ

付此段奉願上

候已上

何大箇ノ

年月日何誰

前書之通願出

候ニ付奥印仕

候也

右區戸長

彼

同

如ク西南ノ妖氣全ク殄滅シ春

光吾カ

聖主ノ恩澤ト共ニ撒ナリ加ルニ横島

律ヲ奏シ臘雪ヲ津ケ和氣処トシテ

慶賞セサルハナシ朝未吟罷ヲ擗リ僅

ニ二十八字ヲ得タリ刻下登門ノ上、点

削ヲ仰クヘキモノナリ

何誰

何府縣如前

▲家出ノ者御

届

何大小區ノ

何誰

年齢

一名

右者本年何月

何日何時頃不

約書游文

頃日夫天ニ采歩孩童

縮身ノ好時長と聞

沙子上野ノ遊人吐

々終譯解集ノ由性

月台文盤... 四

學律必考  
甲子年錄卷之一

年罷出候俵飯  
宅不仕候ニ付  
心當処々相尋  
候得共行衛相  
知不申候付此  
段御届奉申上  
候  
但係合有無書  
ノル  
右區戸長

末之學雅點止之象  
乞先生之許可日受へ  
野飲必何之哉勉強  
之際不考其間則疑  
深健康亦同情にて

年月日 何誰

何ミ、

▲家出者限日

御届

何大小區

何誰

年月

右之者去ル何  
年何月何日家  
出仕其旨御届

子速居日行仕夜酒  
者ハ銘々推一籠可  
迄有之否其回解也  
行也

同  
凍冶ノ花正ニ艶陽三月ニ届テ鳥語珊

月台文體卷之一 五

奉申上置候処  
 左之通  
 一何何年何月何日  
 六十日尋  
 一何何年何月何日  
 六十日尋  
 本月幾日尚又  
 限日ニ候処未  
 夕行迹相知不  
 申候ニ付此段

々タリ春游ノ良期實ニ此ノ際ニアリ  
 若シ風南ノ一妬ヲ被ハ徒ニ三春ニ孤  
 負センノ之故ニ薄饌ヲ辨シ樽海ヲ携  
 へ加ルニ柳橋ノ絃妓ヲ洞裡シテ眞賞  
 セント欲ス足下意アラハ乞フ回鯉ヲ  
 投セヨ

其答

温和日々相かまふ事  
おんわひびひまひま

御届奉申上候  
 何大小區長

年月日 何誰  
 何

▲復藉御願  
 何大小區

何誰  
 年月

一私儀去ル何  
 何年何月幾

好時良辰交涉事  
とよときらよぢんあひまじりこと

上聖々春游盛り  
うへにせいせいしゅんゆうさか

由兼既小生聖游  
よけり兼いせうせいせいゆう

好々家とお考  
こうこうけあとおかんがへ

お柄お子お厚お足之  
おひらおこおあとおあし

日ヨリ家出仕  
候ニ付其段同  
幾日戸長ヨリ  
家出御届仕當  
時尋中ニ御坐  
候処私儀其節  
無断何國何郡  
何所迄要用有  
之罷越道中ニ  
テ病氣又ハ飯

花輪市日急勿漏  
失出淋系来日風日  
難取別游歩不先  
時不後村可也  
同  
東台ノ春遊豫テ余カ企ルトコロナリ

國延引ノ實情  
ヲ云フ本日歸  
國仕候処最早  
家出届相成候  
段承リ今更後  
悔仕候最初無  
断家出仕候段  
重々恐縮仕候  
ニ付何來復籍  
御採用被成下

今幸ニシテ貴兄ノ勸誘ヲ被リ何  
スヘケンヤ一二ノ校書ヲ携ヘ謝安東  
山ノ遊ニ擬セハ愉快何之ニ如カン  
暇刺ヲ務サス馬車ニ乗シテ貴邸ニ赴  
カン

暑中老人文

暑中老人文  
結暑之甚矣殆使人

宗徳

印

候様奉願上候

右木人

年月日 何誰

前書之通相違

無之候ニ付奥

印仕候

戸長

何

▲寄留御届

起石失歩此際如何

消鎖光と申す哉當

夏之寒暖計昇九十

一度之傾百昇之

人生多死すると

何府縣管下

族籍

何誰

年月

妻誰

何年

右ハ當地へ何

用ニ罷越滞留

中本日私方へ

世法誠可恐事

近頃不珍物、有

氷の一函は消暑

多色進呈仕、美為

幸甚

宗徳

印



字... 明... 金...

恹意ノ間柄ヲ

同

以テ寄留為致候ニ付此段御届申上候也何大小區ノ年月日何誰前書之通相違無之ニ付與印仕候

右戸長

其冬

炎威金ヲ銷スノ候涼亭水屋ナクンハ此大夏ヲ過キカタシ高居墨陀ノ佳趣ヲ占メ涼風ノ煩熱ヲ拂フアウシ余カ如キ一轍ノ居処トシテ炎氣ヲ避クヘキナシ晩間驛人ヲ伴ヒ足下ノ清涼國ニ游ント欲ス潰穴アラハ其刺ヲ投セヨ

何...

▲他國出稼御願

願

何大小區ノ

族藉

何誰

右之者今度為

商業出稼何府

縣管下何國郡

示諭展閱酷冷

候益由信道杯

候...

且冰各一函

願由...

九

村町へ當何年  
 月ヨリ來何年  
 月迄滿何ケ年  
 ノ間罷越度申  
 候ニ付拙者保  
 証仕候尤右誰  
 儀ハ訴訟係合  
 等ノ如キモノ  
 一切無之候間  
 別紙ノ出稼一

依以少落忘改日之  
 苦熱一時到清涼國  
 心地位先之草  
 謝及少回之也  
 同  
 論ノ如ク炎威日ニ甚シク処トシテ避

札へ御証印被  
 下度此段奉願  
 候也

右保証人  
 年月日 何誰  
 正副戸長

▲養子御願  
 何府縣管下何  
 國郡何町何村

クヘキナシ弊屋墨院ニ築キ時々一  
 ノ風涼ヲ假シ來ル幸ニ隣人ヲ伴ヒ給  
 へ納涼ノ一小會ヲ促スヘキナリ

梅雨申遊人文

梅雨連日生面閑し

陰如何此錯之也

學行必考 明法文鑑卷之一

何番地平民何  
誰幾男幾女何  
ノ誰今度双方  
示談ノ上私方  
へ貫受養子ニ  
致シ度此段奉  
願候也  
年月日何誰  
正副戸長  
中

此我出園道之中  
考來多仰、事迄江  
之解魚到事案前  
唐人可僅一酒者  
也

送籍御願

何大小區何  
族籍  
何誰  
年月  
出生  
今般為何々事  
業何府縣管下  
何國何郡何町  
何村何番地エ  
轉住仕候ニ付

同

梅雨連日荒齋寂々夕夕足下樂ムトコ  
口何事ノヤ余ハ唯窓前ニ向テ興ヲ筆  
墨ニ寄ルノミ敢テ拙律一篇ヲ呈ス若  
シ笑吟ヲ取ラハ多幸トス

其花

梅之之時長画替

下走ハ集

月台文鑑卷之一

ハ送籍書被  
渡下度此段奉

願上候也

年月日何誰

正副戸長

中

▲縁組送籍御

願

何府縣

此の交書より御返事

謝し殊に流石に輕

魚肉新理者之旨佳

者不返して玉迷

可仕負

族籍

誰

年月  
出生

右ハ今度何府

縣管下何大小

區何町村何番

地何商業何誰

方ハ縁組申合

候間送籍被成

下度此段奉願

同

梅天ノ時節情況鬱々タリ足下真ヲ筆

墨ニ寄セララルト近製一篇ヲ辱フス

句々皆絶調敢テ硯塵ヲ拂テ其高礎ヲ

賣キ一餐ニ供セシテ欲ス

夏秋ノ候也人文

寔ニ頃りて天氣

學徒必書

候也

年月日誰

正副

▲寄留送籍神

願

何大小區

族籍

何誰

何誰

年月

穩々江南江北西

夏秋之佳候ニ相成

吾人大歡ニ因基氏

了勤東京ニ新少紙

取寄し處珍所寄

拙者男何誰

儀洋学志願ニ

付東京府下何

大小區何町何

番地何学校何

誰方へ向三ケ

年ノ間寄留致

度就テハ寄留

書被下渡度奉

願候也

話教多も之破徒然

く聲しは清く

少来やな仰

同

天氣日ヲ逐テ快晴シ正ニ麥秋ノ佳候

ニ届ル村農ハ維新ノ善政ト年穀ノ豊

饒ナルトニ因リ甲園ニ癩歌スル者少

學徒必書

月節文盤卷之一

十三

右父兄

年月日 何誰

正副

▲隱居家督相

續御願

私儀追々老衰

二赴キ萬事不

行届ニ付隱居

仕度依テハ何

男誰へ家督相

シトセス吾人亦大歡ノ事ナラスヤ清  
暇アラハ野外ノ散策如何ソヤ

其五

此子教定以日之友

汝之志業總之業

上東京之新聞紙

續為教度此段  
奉願候也

何大小區

族藉

年月日 何誰

何

▲迹式御願

私儀既六十二

充候処實子一

人モ無之昨今

取寄之文珍法奇作

数多あり之由陰関之

為免昇考之振頭法

隆道多之謝人僕

関新少州個性之好

ハ殊之外老却  
ニ及ヒ存命ノ  
程無竟末ト被  
察候間死去ノ  
後ハ私親屬何  
府縣管下何所  
何町何村何番  
地何誰何男何  
誰、家督相續  
為致度此段奉

了案偷農隙每趨  
庭下  
マカリ

同

麦秋ノ天氣清暄ヲ弄シ野外ノ風光方  
ニ騷人ヲシテ吟杖ヲ促サシム午片公  
暇ヲ偷ミテ田園ニ游歩シ林間酒ヲ温  
ルノ風興ヲ學フモ亦可ナラン耳

願候也

何……

年月日 何誰

▲縁組御願

私長男誰へ何  
府縣何族藉何  
誰ノ二女誰為  
娶度今般双方  
示談ノ上熟議  
相成候間此段

細涼誘人文

並氣順替本日は

而難耐了付從便

景教歩音多國迄

納涼遊傳了了

孝願候也

何、

年月日 誰

正副、

▲死家ヨリノ

死亡御届

私父兄子 誰儀久

々病氣之處 養

生不相叶 遂昨

夜第何時 致死

日處之大会

橋、

極清涼之場

冷氣、

、

去候間此段御届申上候也

何、

年月日 誰

正副、

▲所勞御届

私儀昨夜ヨリ

感冒ノ氣味ニ

テ手足倦怠頭

痛甚ク且寒熱

正答

同

炎威、  
ラス即チ舞、  
カラス晚来、  
廟辺ニテ一宴相催、  
退セハ後遊、

其、



ノ癸作有之候  
ニ付出頭ノ処  
何分出蕪候間  
此段御届申上  
候也

月日 誰

院省使長官名  
宛又ハ府縣長  
官名宛  
▲旅行御届

如余若果難耐  
如或玉主納涼地  
こ吸糸極与乃涼  
来々若々誘園  
同々々 廻景毎々

私儀今般無擾  
要事ニテ何府  
縣管下何國何  
郡何町何村迄

罷越度依テハ  
明何日ヨリ日  
数何日ノ間留  
主ニ致シ候ニ  
付此段御届申  
上候也

叩々々也

同

酷熱日ニ甚シク衣肩ニ上ラス此際涼  
ヲ趨ハスンハアルヘカウス命ノ如ク  
不忍池辺ハ凱風拂々亦蓮花盛リヲ奏  
シ紅白清香美麗ヲ極メン然ハ則觀蓮  
ノ一與亦近世ノ快事ナリ適遊祈ルト  
コロ

字後此類

年月日 誰

正副

▲轉宅御届

私儀今度家業

之為尤便宜ニ

候間何大小匠

何番地へ轉住

仕度此段御届

申上候也

何大小匠

明治文藝集卷之一

菊満在存振人文

秋陽之氣微々如

西清あま祝荒園

之菊花既満つと素

借る所之仰也

年月日 誰

正副

▲妻離縁御届

私妻誰儀何々

ノ云々有之不

如意ニ付親類

一同立會ノ上

証人為相立更

ニ離縁イタシ

候間此段御届

字後此類

明治文藝集卷之一

覽之寵及素何等

得在供足

下詩歌之興身

同

敝莊ノ菊花日ヲ逐テ紅粧ヲ催シ徒ニ  
人ヲシテ真忙ハシク情狂ハシム足下  
若シ光瀉ヲ屈セハ杯ヲ花下ニ把リ吟

明治文藝集卷之一

十八

何、

年月日 誰

正副、

▲盗難御届

年号何月何日

表裏戸口等夫

々締り相附家

一同他出イタ

シ。家族一同

篠ヲ擲ヘテ以テ奇賞セン花モ亦一層ノ潤色ヲ増スモノナリ

其若

言園之菊花満

之際此花相

謝、此花只今未

打臥或ハ未タ

熟睡セス。第

何時頃飯宅ノ

上。或ハ目覚

シ或ハ物音ニ

驚キ家内ヲ見

廻リ候処何処

ヲ切破リ。或

ハ押外シ。盗

賊忍入或ハ抜

淡利平、有終、  
毎、日、空、下、出

同

聞キ得タリ君カ家ノ菊花十分ノ秋ニ誇リ吟賞ノ與此際ニアリト忽チ寵召ヲ辱フス豈雅命ニ負ンヤ即刻趨赴セム

寒中、寒、人、文

刀ヲ以テ押入  
 リ金錢可差出  
 旨申威シ其見  
 見認ル片ハ詳  
 細記載スヘシ  
 〇筆筭或ハ何  
 処ノ錠前ヲ破  
 リ。或ハ引放  
 シ金錢衣類尤  
 之目錄遺通盜

華贖お皇母の烈  
 室難耐、交差、借  
 あり多、僕室我  
 閑信、立、意、お、  
 味、信、味、の、と、  
 謝、函

取。或ハ奪取  
 ウレ候。若シ  
 盜賊ノ遺留物  
 アノハ左ノ書  
 式ニ照シ別頂  
 ニ認ムヘシ。  
 此段御訴申上  
 候也

何大小區、  
 何商業又ハ平民

此の形と一之て友人  
 寒室雅会、  
 松市、  
 一酒席、  
 同  
 寒威骨ニ碇リシ、  
 雨雪零々タリ、  
 老兒此

字往必

瑞祥

年月日 誰

被盜品目錄

一金

内

何田貨幣又ハ

紙幣

一懷中金銀時

計一箇

大サ何寸何分

又ハアンプル

ノ嚴冬ヲ忍ブニ由シナシ曾テ驗ク雪  
ハ豊年ノ瑞祥ナリト互ニ唯明年ノ豊  
登ヲ待ツ耳

其冬

稀星維時中冬

柔日ハ権ハ如益

カ又ハ龍頭卷  
カ其模様ヲ記

スヘン

一羽織木綿

一帯何織 何枚

凡代價何程 何枚

一何品 何個

○盜賊遺留品

下多福多賀ハ小生

日夕畏寒哉ハ

凍噴チ道ハ希クハ

見海也ハ

興又ハ一酒者ハ

...

...

...

此遺品ハ盜難届ト共ニ増スヘシ

一ノ刀 一ノ品

製作ノ荒増ヲ

記スヘシ

▲被盜物御届

一私儀何業ノ

者ニ候処昨幾

日午后何時例

凌嚴之冬多迷子臺

三仕久

同

飛雪雖々明年モ亦木有年ノラウシ寒ヲ忍テ互ニ豊穀ヲ待ツ夏以米江南ヨリ竹ニ半庭ニ移シ来リシカ守持漏ナク皆問ヲ奉セス平安是祈ルトコロナリ

之如ク家内戸メ仕卧入候処

同夜何時頃何

カ物音イタシ

候ニ付目覚起

出候処ニ階兩

戸押明有之候

ニ付驚入家内

呼起シ相改候

処尤之通

慰人之病文

号名不平之由美也

系速可逐次問之矣

官事執掌多累其劬

！平！其悔也

一何品  
一云々  
一  
一  
一  
一何矣  
右之品々無神  
坐候全ク盜賊  
之仕業ニテ被  
盜取候儀ト奉  
存候此段御届

新々自某交鳥臆糖  
到東々系呈臣復茶  
後々常用々水治養  
秀之々存  
同  
聞ク尊着某感帽ノ患アリト時令寒五

奉申上候已上  
何大小區  
年月日 誰  
右戸長

甚夕病体ニ可ナラス切ニ補劑ヲ服ス  
ヘシ公務増集ヲ以テ慰問ヲ缺ク乞フ  
多罪ヲ認セヨ今一翰ヲ寄セテ尊恙ヲ  
問フナリ

警察署何分局  
東京チレハ警  
視廳名當  
▲拾物御届  
何大小區

其々  
拙者淹病在在處  
荷届慰問遠末なる

字行必也

誰

右奉申上候私儀去ル何日或本日何処还用向有之罷越候途中第何時頃何処ニテ左ノ品拾取申候因之右品持参此段御訴申上候

日清天鑑卷之一

賦糖ニ送ル後ヲ取返

補翼ニ送ル後ヲ取返

答宛ニ送ル後ヲ取返

可ク傳レ病ヲ表シ把テ草ニ置ク

可ク傳レ病ヲ表シ把テ草ニ置ク

ヒヤウチウ

フテトリ

也

年月日誰

一何品

但シ何々

名當如前

▲落失御届

一私儀何営業

之者ニ候処昨

何日商用ニ付

午前何時頃ヨ

如キ杵ノ子ノおの恭に

同

小軀疾病ニ罹リ臥床日アリ痛楚甚ク重シ昨ハ慰問ヲ蒙リ多々感佩ス病筆

訪レ不逢羽ノ日老文文

昨ノ日老人ノ愛愛

字行必也

月台文監卷之一

廿四



リ何所へ罷越  
 シ飯路何通北  
 へ何筋南何橋  
 渡り飯宅仕不  
 身心付懷中相  
 改候処尤之品  
 無之候  
 一何色紙入  
 但内ニ  
 何品々

何申上之也  
 候仕故糸造次也  
 風眉惆悵傳之本日  
 更亦暇之奉  
 何申上之也

右之通無御坐  
 候全途中ニテ  
 落失仕候儀ト  
 奉存候此段御  
 届奉申上候也

何大小匠  
 年月日誰  
 戸長

同  
 相鳥貴邸ニ到ルトコロ  
 令聞ニ辨接シテ飯ル  
 珍事等ヲ談セント欲ス他日  
 ハ乞フ玉趾ヲ移シ給ヘ

其答

頃日夫以俗子奉立

字徒必其

明治文藝卷之一

名宛如前  
芝居役者渡

世御願

何...

誰

年月

右ハ今般芝居  
役者渡世仕度  
候ニ付御規則  
之通今何程上

市巷ノ交ヲ云々

清白ヲ好ム

華間飛

東出閣而唯笑鳳

字也

納仕候間何卒

御鑑札御下渡

被下度奉願ニ

候已上

年月日

何府縣

前書之通ニ付

奥印仕候已上

區戸長

誰

同

海外ヨリ賑濟セラル、ノ後疎遠胡漢

ヲナストコ口昨ハ茅舎ニ枕貫アリト

不意哉俗事走奔ニ際シ釋皓ヲ遂ケス

孝久乃達文

尔来冬之疎闊

山手走公書

月台文監卷之一

廿六

▲棄見御届  
 當町誰宅軒下  
 二於テ昨何日  
 午前后何時頃  
 年幾凡何年何  
 夕月計之男子  
 放棄有之候ニ  
 付早速町役人  
 方ニ養育仕置  
 候間此段至急

と交彼慕想像  
 益の益  
 迎以  
 儀仕  
 即呈一封  
 時ら子

御届申上候

何區町

年月日 戸長

何府縣

▲失火御届

昨何日 午前何  
 時何 誰宅ヨリ  
 失火 同何時 鎮  
 火ニ及候 条別  
 紙相副 此段 御

堂自堂

同

僕西海ニ抵役セシヨリ飛登三タヒ移  
 ル想望渴スルカ如シ足下平安ナラン  
 曷ソ欣慰ニ耐ヘン近頃咨問ヲ奉セサ  
 ル故寅テ瀾際ノ便楮ヲ送呈ス

其答

字律

届申上候也

何

年月日 先元 誰

同上

類焼

何府縣

前書之通

右匠戸長

飛来し教信謹言

好讀如命 尔後久

潤多如想 聖不耐

益且少安 亦飲香

彼小生 亦律似勢

▲焼失家数并

失火手續書

何郡村町何番地

一建家何軒

誰所持

内 居宅何軒  
土藏同

同何番地

一建家

内 居宅

右何日午前何

石井 洛問 罪難続  
以 節 寛 村下  
泣 糸 糸 糸 糸  
撰 師 師

同

足下西海ニ抵役セシヨリ芝顔ヲ拜セ

字律

月拾文盤卷之一

廿八

時何誰居宅ヨ  
 リ出火同家焼  
 失仕候折柄  
 風吹起リ火勢  
 甚シク何誰宅  
 類焼ニ及ヒ終  
 ニ何誰方ニテ  
 鎮火仕候  
 年月日何誰  
 ▲送藉受取書

サル一茲ニ三年咨問ヲ奉スヘキトコ  
 口却テ教簡ヲ送ウレ多謝々々借問ス  
 西海ハ國ノ尾端ニ位シ風氣極テ頑固  
 ナリシカ蓋シ塔藏薩賊ノ沸起スルヤ  
 民心恟々タリ官軍之ヲ征討スル一殆  
 ト一周年ニ至リ遂ニ之カ凱陣ヲ奏ス  
 彌後民心少シハ文化ニ進歩スルヤ足  
 下安寧保持ノ大任ヲ奉シ晨夜頗ル焦  
 慮アラシク不任カ如キ釣魚ヲ東海ニ学  
 ヒ優遊姑息自ラ慙笑ヲ取ル耳

式  
 一何誰送藉証

一通  
 右之者從來其  
 町住居ニ候処  
 今般當町へ移  
 住ニ付送藉証  
 被差越正請取  
 申候爾來當町  
 藉へ可致編入

乞医求治療文

家原其患暴烈  
 焦竈既出糸禰先  
 生良劑夜造  
 其苦学

候依テ如件

何府縣

年月日 戸長

何府縣

戸長宛

▲家塾開業御

願

第一條

家塾位置

何大小區何町村

存、得先則、引

人車、官、毎、一、夜

炭、重、多、乃、

同

賑生間者暴邪ヲ思ヒ頭目昏眩起居甚

夕自由ナラス難渋爰ニ谷ル敢テ國手

ノ妙劑ヲ煩シ一ツニ病魔ヲ逐ント欲

何番地舎号

第二條

教員履歴

何府縣

誰

年月

代々何職ニ候

処自宅ニ於テ

父某ニ從ヒ何

ノ何年月ヨリ

ス懇ニ乞フ光篤シテ診治セフレント

其為

予、眷、某、君、亦、疾、病

ニ、付、拙、医、被、命、診

案、殊、ヒ、引、人、車

何ノ何月迄都合何々年修業

罷在候

第三條

学科習字算術

教則

授業時間

塾則 毎月一日六日十六日廿六日

天長節并御祭

日休業

有悃情之返也

糸速趨走之呈調

割

同

足下近頃風邪ニ究困シ拙医ニ命シテ  
診治ヲ托ス即刺趨庭シテ貴恙ヲ伺

右之通開業仕度此段奉願上候也

年月日 誰

戸長

学區取締

何府縣

何商開業御

契安彦文

氏名 契安彦文

遊 氏名 田中 氏名 田中

由方今 氏名 田中 氏名 田中

此成人之上之書

願  
 一私儀此度何  
 商新規開業存  
 立候ニ付御鑑  
 札御下渡被成  
 下度右御規則  
 之通相守可申  
 候已上  
 何大小區

雲水遊以成之勿論  
 玉蓮投懐之老水  
 少家了隨而輕信  
 一重進上修誠

年月日 誰  
 前書之通相違  
 無之候ニ付奥  
 印仕候尤何等  
 鑑札御下渡可  
 被下候  
 區戸長  
 誰  
 何府縣  
 ▲渡世御願

表飲齋而已  
 同  
 恭ク聞ク昨夜冷闇一子ヲ生ムト真成  
 ニ玉藍田ニ生ス他日成長ヲ作サハ才  
 海内ヲ纏シ終ニ池中物ニ非ス豈榮賀  
 セサランヤ聊カ樽酒ヲ送テ湯餅ノ宴  
 ニ供ス嘉納セハ多幸ナリ  
 其答



私儀今般別紙  
之通唐物類渡  
世仕閑店致度  
此段奉願候也

何大小區

年月日 誰

何府縣

▲增渡世御願

私從來何々之  
渡世ヲ以テ嘗

保生頑以先以榮  
産之其嗣之徳受  
賀祝美醜鹿之胞衣  
送之深き感銘  
拙妻ト迄交ノ礼

業致候処今般  
尚又別紙之通

西洋藥種及医  
術器械等致増

加閑店仕度此

段奉願候也

何

年月日 誰

何

▲米商會創立

出、毎々、お復

同

荆妻昨夜一子ヲ舉ケケムシク後無キノ  
憂ヲ慰ス若シ聴徹ナルハ余カ願フト  
コロナレ氏青藍ヨリ出ルモノ定御ノ  
驚駭馬ノ蹄ヲ用ンヤ過テ褒儀ヲ蒙リ  
贈領何ソ勝ン

謝躰招文

御願

明治九年八月

太政官第百五

号公布米商會

所條例之旨趣

ニ基キ凡ソ下

條ノ目的ニ因

テ按同結社米

商會所ヲ創立

シ營業致度候

昨日昇堂處

厚き預内御分庶感

佩る至候満

醉退及以人車

後中帰電付

付右創立御訴

被成下度依テ

別紙創立証書

並ニ定款申合

規則共相副此

段奉願候也

何使府管下

一創立場所何町

一戸数 何百軒

一該地費消米

今朝自有失敬

申海忠是禱

先之改札迄如斯

候

同

往日ハ料ラス台塔ニ踵リ過テ變忘

何万石

一同産出米

何万石

一輸出或ハ輸入

入米

何万石

内訳

高米凡何部

何郡ヨリ何邊へ  
輸出或ハ輸入

厚キヲ蒙リ徳ニ飽キ恩ニ酔フテ涯リ  
ナシ嘉肴ノ美味今ニ至ル迄尚  
アルカ如シ后刺叩謝セン  
クキサキ

其意

此の意は高米の由事  
何れに波母の意事

同何部

一回送回着

一米商人何人

一賣買取引米

凡積何千石

右現今實況及

将来賣買取引

ノ見込共書面

之通御坐候已

上

自是謝

可上之受賜款

極之出謝及而慙入

事之其中又

有相顧多事也

発起人

年月日 誰

何府縣

▲新規建家御願

願

一私抱屋敷第

何番地空地へ

新規建家仕度

候ニ付何卒雨

落御検査之儀

同

昨日ハ邂逅ノ寵臨ヲ賜ヒ幸ニ一室ノ

光彩ヲ得タリ然レモ村醜蓬萊殊ニ其

敬ヲ失ス甚多怠慢ニ似タリ是ヨリ又

玉歩ヲ移サレヨ

# 賀婚儀文

才函お呈し奉るは是の

奉願上候

何大小區

年月日 誰

戸長

何府縣

▲板田御願

一私抱屋敷第

何番地空地へ

新規建家仕候

良媒者之迎令

聞且少婚儀お慰先

以多様系須款茶

寛因而祝賀寸

快迄至有輝

付本日ヨリ来

何月何日迄何

十日ノ間板開

仕度尤往来ノ

妨ケ不相成様

可仕候此段奉

願上候已上

何六小區

年月日 誰

右戸長

同

聞ク足下媒介アリテ某処ノ長女ヲ娶

リ婚儀今夜ニアリト玉帳中ノ夢ハ極

テ巫山ノ趣ヲ作サシ欣羨々々敢テ薄

紙ヲ送呈シテ以テ聊カ祝筵ニ充ツ幸

ニ晒留セヨ

其為

花墨展見給夫小

誰

何

▲地券書替御

願

談地券書ノ地

所今度何誰へ

譲受候ニ付沽

券御書替裡書

致シ御渡被下

度依テ双方連

生以可測縁為荆

妻一、愛過蒙愛祝

送大聽之有種了取

或荷少病当谢

お肩

印奉願候也

何、

讓主誰

年月日

受主誰

何、

右戸長

誰印

▲荒地開拓御

願

私儀今般何大

同

有家ノ一ノ女吾ニ嫁與シテ幸ニ茅廬ノ  
儀ヲ辱フセントハ拙宴ヲ開クノ刺従  
者ヲ遣テ閣下ノ光景ヲ仰ン感謝勝ス  
姑ク茲ニ申謝ス

賀喜子文

是ノ平素素ノ由志願

ツ子

オノゾミ

小區何村ノ西

方ナル何ヶ原

ト申荒蕪地ヲ

縦長何里何百

間横幅何十町

此総坪何十万

何十坪ヲ開墾

仕畑地ニ致シ

度尤此儀ニ付

莫大ノ入費モ

處這回其子

と遊了旨 誦之

隆盛之基此園門

承祝着を勿漏め眷

原はあ心とま

相係申候事故  
 何ヶ年ノ間ハ  
 無税地ニ被成  
 置何ヶ年目ヨ  
 リ一反歩ニ付  
 何程ノ地租上  
 納仕度依之此  
 段奉願上候何  
 卒脚聞届可被  
 下候也

不聴之祝儀之好  
 於一荷進呈中  
 美為少仰之為  
 度  
 同  
 老犬類齡ニ及ハレ某家ノ季子ヲ迎ヘ

何々、  
 年月日 誰

右温戸長  
 誰

何々、  
 閑壑御願

私等何名申合  
 セ當縣下何大  
 小區何ヶ原ヲ  
 閑壑イタシ桑

其令嬢ニ配偶セラレタリ則家門ノ繁  
 栄ナリ因之魯酒一樽ヲ送呈ス只替人  
 献芹ノ寸志ヲ表スル耳

其為

如等之為僕益及類  
 影之易倦各

苗何万本茶苗  
 何万本ヲ植立  
 一層產物ヲ繁  
 殖為致度目論  
 見別紙圖面ノ  
 通ニ候間御差  
 支モ無之候ハ  
 此段御聞届  
 被成下度地稅  
 ノ儀ハ向五ヶ

某次男致法皇子お替  
 少候少は稍遠平素  
 志願し抱く青奉  
 者こそ糸花蘭  
 時風除却は交由依  
バンジオビキタテ  
オクワカキ  
オクワ

年後ヨリ一町  
 歩ニ付金何程  
 宛可奉<sub>レ</sub>上納候  
 也

何  
 年月日誰

右同  
 右區長

頼ミモカス一と自オノ是コト自オノ祝  
 可オノ仰オノ西オノ光オノ賣オノ  
 積オノこもるオノ並オノ言オノ臆オノ  
 祝儀深々謝々

不オノ倭オノ益オノ加オノ齡オノニ及オノヒ世オノ事オノノ一オノ混オノスオノヲ



何、  
川中拜借御願

何川筋

一長ナ何間

一出、

一板何本

此坪何十坪

右者當區何町

何誰濱先川中

奈ニ是以テ某氏ノ二男ヲ養ヒ我ヲ助  
ケテ侍省セシム敢テ家門ノ繁栄ト云  
フヘキニ非ス賀儀ヲ領シテ感佩極リ  
ナケン

此為某氏子父

金多社杯賀

聞是の至る旨縁

拜借仕度尤御  
規則之通相守  
可申候此段奉  
願上候也

何、  
拜借人

年月日 誰  
右濱先主

前書之通

有<sup>おぼ</sup>之<sup>おぼ</sup>赴<sup>おぼ</sup>之<sup>おぼ</sup>子<sup>おぼ</sup>由<sup>おぼ</sup>  
祝<sup>おぼ</sup>者<sup>おぼ</sup>何<sup>おぼ</sup>か<sup>おぼ</sup>も<sup>おぼ</sup>丈<sup>おぼ</sup>他<sup>おぼ</sup>家<sup>おぼ</sup>  
相<sup>おぼ</sup>續<sup>おぼ</sup>ス<sup>おぼ</sup>大<sup>おぼ</sup>切<sup>おぼ</sup>ニ<sup>おぼ</sup>儀<sup>おぼ</sup>系<sup>おぼ</sup>  
子<sup>おぼ</sup>若<sup>おぼ</sup>父<sup>おぼ</sup>母<sup>おぼ</sup>ノ<sup>おぼ</sup>業<sup>おぼ</sup>ト<sup>おぼ</sup>遠<sup>おぼ</sup>  
皆<sup>おぼ</sup>甘<sup>おぼ</sup>ク<sup>おぼ</sup>相<sup>おぼ</sup>承<sup>おぼ</sup>ス<sup>おぼ</sup>殊<sup>おぼ</sup>ニ

右者當區何町

何...

...

何...

▲川中拜借返

上御届

何川筋

一長サ...

一出...

一杭...

此坪...

先方...

先方と大家の交

系音...

字唯...

...

...

右者當區何町

何誰濱先川中

拜借罷在候处

此度奉返二候

何...

年月日

拜借人誰

右濱先主

...

前書之通...

...

...

...

...

...

...

...

古戸長

何

堤防修覆

願

一字何々堤九

長サ何十間

一右昨年来霖

雨ニテ河水相

男兒射弓四力志

奮昔績以責

日必海多謝

賀造屋福轉文

張梅花瓜沙夜

増破損致居候

間向後万一洪

水有之節八大

破ノ程難計候

間岸村修覆仕

度至極御見分

被成下度此段

奉願上候也

何

戸長

遷移轉拵笑上

棟一際一見侍り

新成煉化石

世不易精妙学上

所長一市夕重候

守社公...

明治文藝...

年月日

區長

至其子也

呈為... 幸... 笑...

何...

道路修繕成

就御届

記

何大小區何町  
通道普請仕候

同

聞ク廣厦已ニ落成シ... 擇ハレ商業旧ニ異リ尚一層盛隆...

ニ付當何月幾

日車止札御下

渡奉願候処取

日迄ニ全ク出

來仕候間御下

ケ札御返納申

上度此段御届

申上候也

何...

年月日 謹

其為

新築粗成粒粒

由在揚存... 晒聊覆

風向自而已... 窓紙可

秘快... 止也

學校必考

明治文藝...

学術心考  
明治文藝卷十一

何、

▲人力車御檢

印御願

一私儀此度人

力車一人兼一

輛新規買求候

ニ付何率御檢

印被成下度奉

願上候最御規

則之通相守可

此區蒙在買愧領也

ト閑室、以事仰

志事

同

新築正ニ落成ヲ得家ヲ移ス下月アリ

然ルニ僕廣厦ノ宏麗ヲ欲スルニ非ス

唯旧地ヲ易ヘテ肆店ヲ開キ聊カ煙頭

申候

何、

年月日 誰

前書ノ通、

右匠戸長

何、

▲人力車讓換

御願

ノ微利ヲ逐フ耳過テ賀賜ヲ蒙リ拜嘉  
惶悚ス

贈小学卒業人交

足下業達ニ益量

也、又僅以三星

漢字書教、小学

学術心考

明治文藝卷十一

一私儀人力車  
 一人乘一輛所  
 持罷在候処此  
 度何大小區何  
 誰へ相讓候ニ  
 付此段御届奉  
 申上候尤税金  
 ノ儀ハ右讓受  
 主某ヨリ相納  
 可申候

諸級悉皆以并盡  
 其成也予了進生三  
 年解努力改得大  
 事以家業是の直  
 捷之進歩神人

但何印何番  
 ノ小旗一ツ  
 奉返上候  
 何  
 年月日  
 讓人誰  
 何  
 讓受誰  
 前書之通

中ノ驕也自今當  
 其研究者之上矣  
 其の故廟堂之大任  
 以之白論邦家  
 大平被敷也

右兩區、區  
戸長

# 交事一云

同

何、  
 ▲人力車檢印  
 返上御願  
 一私儀人力車  
 一人乘 一輛所  
 二人乘  
 持罷在候処此  
 度車相損候ニ

兄カ朝參暮究スルヤ源泉混々トシテ  
 晝夜ヲ舍テサリシカ僅ニ累月ヲ經テ  
 小学ヲ卒業シ自今亦中学ノ精研ヲ志  
 ス他日國朝ヲ經緯スルノ人ト成ル以  
 テ難キヲナカルヘシ之ヲ勗ヨ

# 其五

付難用依之御  
檢印奉返上候

何、

年月日 誰

前書之通、

區戸長

誰

何、

▲川舟御檢印

野生昔者吾區ノ苦量

預日獎券一冊振部

至多之少以之小

學法科僅存業傳

將至真科一殊

御願

一私儀何舟一艘新規買求候  
二月御檢印被成下度奉願上候

年月日誰前書之通

未熟専ら研究  
之業生責  
兄最字匠卒業  
中學生入  
塾、中野百子

右戸長

何、宿屋開業御鑑札御願

一私儀今般宿屋開業仕度何卒御鑑札御下渡被成下度奉願上候

此、是日校頭引  
之、也

同

志ヲ立ル、亦甚ク易ク道ヲ得ル、其難ヒ我ニ倭、累月艱勤シ、僅ニ小学ヲ卒業スル耳、質性魯鈍、深ク晩進ヲ慙ッ、過テ慰命ヲ承ケ、感佩、曷ノ勝ン



何

年月日 誰

前書之通

右返戸長

誰

何  
藝妓稼御鑑

札御願

何

勸入校文

貴子最子より過

六年餘少才是昔是

コトニハ 友速所入校者

之西海少子者

何町何番地

誰

年月

私儀藝妓稼仕  
度諸事御規則  
之趣堅相守可  
申候間御鑑札  
御下渡シ可被  
成下置候様奉  
願上候

通亦今こ小学を廢

片家材塾を遷す

設文運進歩し学制

以来僅從六年十年

作る音字ありて

守待以...

右  
年月日 當人誰

父

誰

右取糾候処誰

真意ヨリ出願

候儀ニ付奥印

仕候也

右戸長

誰

識海亦考玉之政体

人情之至體地球

之纏夜之至之古令

未嘗有之捷學の堂

不不快乎我善之智

何、  
娼妓株御鑑

札御願

何、

何誰女

誰

何大小區何町

何番地貸坐敷

渡世何誰方へ

出稼

出入校の由ありて

少子誘引の上り

同

都下文化ノ盛ナル各地方ノ書生大学  
ニ出入シテ其智見ヲ開達セントスル  
者日々千百名ニ下ラス其卒業ヲ得ル  
者或ハ院省ニ拔擢セラレ或ハ府縣ニ  
任用セラル僕僻邑ニ蟻屈シ適々ソノ

...

...

私儀娼妓稼仕  
度諸事御規則  
之趣堅相守可  
申候間御鑑札  
御下渡御許可  
可被成下候様  
奉願上候也

布

年月日 誰

父

形況ヲ實驗セシナリ蓋シ帝王ノ都ス  
ルトコロ大政ノ出ルトコロ大美事ト  
謂ツヘシ一タヒ此ノ土ヲ躡ムモノハ  
不才モ猶才ヲ生ス況ヤ足下其器ヲ抱  
ク辱ソ大学ニ精研セサルヤ僕太夕之  
ヲ遺憾トス願クハ速ニ東上シ名ヲ背  
雲ノ上ニ懸スヘシ勸之々々

其答

誰

右取糾候処誰  
真意ヨリ出願  
候儀ニ付真印  
仕候也

右長

誰

何  
▲出版御角共  
版權免許御

月台文藝卷之一

五十一

頑児之家字子色六年  
交由の事知る通の御  
景行の史子豚大  
性修の系令入校  
及中字歩の進達

願 一書名何冊周  
 ナレハ大中小  
 法書ナレハ大  
 中小  
 何年月出版  
 (或ハ大部ノ  
 書ナレハ内  
 何編又ハ何  
 冊何年何月  
 逆ニ出版

如何哉与係慮傳  
 然其悃々少也示  
 實可々々少也也  
 文的(其化)子學  
 問(其)生(其)法(其)校

右ハ(私)何誰先  
 人誰著(編輯)何  
 々ノ事ヲ記載  
 論述翻訳ナレ  
 ハ私以下ニ代  
 ルニ下文ヲ用  
 ヒ何年何國何  
 氏何ト題シタ  
 ル何々ノ頁ヲ  
 記載セル原書  
 論述

戲游(其)より一日也  
 迷合(其)校(其)誰(其)魚  
 少(其)玉(其)智(其)又(其)耶(其)  
 考(其)し(其)殊(其)と(其)少(其)  
 誘(其)少(其)少(其)少(其)少(其)情(其)系

ヲ(私)何誰(先人)誰(翻訳)致シ一  
切條例ニ背キ  
候儀無之候間  
今度他人ノ著  
談ノ上ノ四字  
ヲ用ユ  
出版致度此段  
御届申上候也  
猶版權免許奉  
願候也

謝或名傳、男、  
之、校、系、互、  
依頼、上、也

同  
東京ハ大政ノ出ルトコロ帝王ノ都ス  
ルトコロニシテ其民人ノ文化ナルハ  
勿論游学生モ亦四方ヨリ輻湊セン僕

何府縣族籍

年月日 誰

住所記  
スヘシ

他人ノ著訳書

ヲ出版スルニ

於テハ即チ左

之通

何府縣族籍

年月日 著訳者誰

住所同前

大学入塾ノ夙志ナキニ非レ足下知  
ル如ク嚴父病床ニ即シ侍養ス以テ其  
志ヲ果サス甚タ之ヲ遺憾トス然レモ  
病父痊理ヲ得ハ奮發シテ入校セン始  
教感刺ス

錢洋行友人文  
不日再洋行

同右  
出版人誰

住所

内務卿宛

前書之通願候  
届候

二付進達候也

年月日

何府縣知事

又ハ令誰印

▲既刻圖書版

惟此ノ時皇ノ候波

濤至ニ至臨分ニ安康

ヨリ若海ノ仰ノ欧米

各國ハ文物制ニ至

盛ニ翻譯出版ニ至

権御願

一書名何冊小大

繪圖ナレハ大小寸法

右ハ(私)何誰

著(編輯)

何々ノ事ヲ記

載又ハ翻スレ

ハ私以下ニ代

ルニ下文ヲ用

ユ

及得ニ其ノ実地ニ至

且學業研究ニ至

洋行出版ノ先

資空之難送ニ至

送憾ニ至一

何年何國何氏 著何ト題シ何 々ノ事ヲ記載 記載セル原書 論述セル先人 誰私何誰先人 誰翻致シ去ル 何年何月出版 イタシ候モノ ニシテ一切條 例ニ背キ候後

唯恐首至聊候  
禮儀早日自備航  
喜哀久

宇宙渺哉東南西北數千里和曰曰曰漢  
ト曰曰曰曰曰曰曰曰曰曰曰曰曰曰  
ト曰曰曰曰曰曰曰曰曰曰曰曰曰曰

無之候間此段 版權免許奉願 候也

年月日誰

住所

都テ他人ノ著 記書ヲ出版ス ルニ於テハ前 条ノ如ク著記

シ其民ヲ民トシ各其宜キニ從テ其政 ヲ作ス然ルニ國ノ文化ト文化ナラザ ルトハ大ニ其遲速アリ今凡洋師某ニ 從遊シテ南米ニ航海スルヲ聞ク夫レ 米ハ文物ノ美ナルヲ本邦ト同日ノ談 ニ非ス兄ノ航海所慰々々業成テ早ク 飯朝セラレシヲ俟ツ

# 其名

字林... 日...

者出版人連名  
押印スヘシ以  
下之ニ倣ヘ  
内務卿、  
▲他人ノ著記  
ヲ続成シタ  
ル出版御届  
若クハ版權  
御願  
一書名、

洋行ニ在キテ  
ポーランド  
帰航ニ乗ル  
仕、僕素貧乏  
モトヨリピンポウシヨナイ

何年何月出版  
或ハ大部ニ  
テ漸次出版ノ  
書ナレハ内何  
冊若クハ何編  
何月出版  
右前編ハ何誰  
著何々ノ事ヲ  
記載論述如何  
年何國何氏著

及得生非海學志  
取唯陸夏洋海文  
化而已能交賜  
物多、謝、解  
面陳、付、

學徒心傳 明治文藝叢書之一 五十六



何ト題シ何々  
 ノ事ヲ記載論  
 述ヤル原書ヲ  
 何誰翻訳致シ  
 何年何月出版  
 板權ヲ得シモ  
 ノハ此間ニ板  
 權ノ二字ヲ加  
 免許ヲ受候処  
 右何誰故障ア  
 リテ後編成功

同  
 洋師某ニ追遊シテ海外ニ航セントス  
 僕不才ト虫モ志ヲ海外ニ立ル一凡ソ  
 三年今本願ヲ得タリ留學五年ヲ期ス  
 飯朝ノ後手ヲ燈光下ニ把テ洋事ヲ談  
 セン

賀友人就宦文

東京分袂後屈

ノ目途ナキニ  
 ヨリ私后編ニ  
 フ繞著イタシ  
 一切條例已下  
 如前  
 年月日 前編  
 一主 死右ナレハ  
 相続人  
 何誰 住所

指定區再換  
 西あ寧、飲在  
 聞從丈神奈川縣  
 由位階示  
 僕抱持

右編 著訳者  
後何冊

何誰

出展住所

内務卿

▲訴状表紙ノ

式

某ノ訴状トハ  
假令ハ貸金ノ  
淹滞ヲ訴ルハ

紙才仕途ニ志を馳  
償ノ糸々遊々ニ  
先取上ノ積々ニ  
七種能ハ推卷ニ  
右旅況正何者候

先取上ノ積々ニ  
七種能ハ推卷ニ  
右旅況正何者候

貸金催促ノ訴  
状ト記シ流質  
地ノ争論ハ流  
質地引渡シ催  
促ノ訴状ト記  
スルノ類

年月日  
某ノ訴状  
住所  
身介  
氏名

官第 候ニ待候  
部 也

彌来ハ手容ニ濶ルヲ累旬ニ及フ旅況  
如何旧ニ依テ平安ナウン聞ク足下朝  
命ヲ奉シテ棟奥ニ抵役スト想フニ夫  
該地ハ國ノ辺僻ニ位シ政化ノ未タ  
洽子カウサルトコロ願クハ足下其器

▲訴訟ノ式

原告人氏名 住所  
 被告入氏名 住所  
 標記云々  
 右原告人氏名  
 申上候私儀云  
 年月日 氏名印  
 住所 身分  
 代書人氏名印  
 某 裁判所

材ヲ以テ公吏ヲ努カシ偏ニ民人ノ文  
 化ヲ計レ謹テ尺素ヲ寄セ茲ニ訪問ヲ  
 奉ス

其苦

久急答分交賜  
カクニ子モセヌトコロ

習相讀侍ニ事生  
ガミクダサレ

▲答書表紙ノ式

年月日  
 某ノ答書  
 住所 身分 氏名

▲答書ノ式

程洋字ヲ研究ニ由  
 多遠知カク事及  
 通小僕ニ任ニ林奈川  
 知レ以吏ニ得テ所  
 謂窮猿投林ニ違擇  
コシキカニタルサルガハヤシニイル  
キナニシラフ

住所 身分 被書人氏名	某ノ答	右住所身	分何誰何	々ノ儀訴	出候ニ付	今何日御	呼出ノ御
-------------------	-----	------	------	------	------	------	------

樹ツキ之ノ心ココロ成なりり  
 下した遊あそ学がく所ところ  
 車くるまりの如ごとく  
 松まつ有あり、毎ごとく  
 待まちす

状拜見仕	御答申上	候	私儀云々	証拠ノ書	類 <small>ル</small> ア <small>ラ</small> ハ	其字 <small>カタ</small> ヲ記	載スヘシ	右之通ニ	御坐候
------	------	---	------	------	---	-------------------------	------	------	-----

同  
 大教ノ如クイハレ異マ邦ホウニニ敬ウヤ浪ナシ閣下ノ音容  
 ヲ聆キカナル正ニ累月ニ及キテニ眷ケン徳トク尤  
 モ切ナリ然ルニ僕日者恩命ノ嚴切ナ  
 ルヲ荷シテニ命ノ東奥ニ赴ツキキ  
 シカ固陋ノ質敢テ民人ヲ開化セシム  
 ルノ大事ニ任トヘカシテ自ラ僂レ伴トヲ取  
 ルナリ

**餞赴任文**

月台大監長  
 六十

年月日

氏名印

住所

身分

代書人氏名印

某

裁判所

△勸解訴訟御

願書式

承生念息の官事

赴<sub>カ</sub>東<sub>ノ</sub>東<sub>ノ</sub>西<sub>ノ</sub>並<sub>ニ</sub>書<sub>ス</sub>

云<sub>ハ</sub>貴<sub>方</sub>有<sub>リ</sub>事<sub>ニ</sub>申<sub>ス</sub>耳<sub>ニ</sub>

拵<sub>レ</sub>候<sub>レ</sub>物<sub>々</sub>申<sub>ス</sub>并<sub>ニ</sub>取<sub>ル</sub>

首<sub>ヲ</sub>途<sub>ニ</sub>去<sub>リ</sub>申<sub>ス</sub>返<sub>シ</sub>僕<sub>等</sub>

早<sub>ク</sub>查<sub>ス</sub>候<sub>レ</sub>様<sub>々</sub>申<sub>ス</sub>取<sub>ル</sub>多<sub>ク</sub>

と<sub>モ</sub>謝<sub>ス</sub>候<sub>レ</sub>事<sub>ニ</sub>申<sub>ス</sub>御<sub>意</sub>

と<sub>モ</sub>申<sub>ス</sub>候<sub>レ</sub>事<sub>ニ</sub>申<sub>ス</sub>御<sub>意</sub>

於<sub>レ</sub>儀<sub>ニ</sub>且<sub>ニ</sub>申<sub>ス</sub>迷<sub>フ</sub>事<sub>ニ</sub>御<sub>意</sub>

耳<sub>ニ</sub>也

住所  
身分  
原書式各印

何々勸解願

住所  
身分

年月日  
被書人氏名

▲代人ヲ出ス

時ノ勸解書

字行... 日...

式

住所 身分	原告人氏名印	住所 身分	代 人	住所 身分	氏名印	何々勸解願	住所 身分	被告氏名
----------	--------	----------	--------	----------	-----	-------	----------	------

同

足下久シク艸菴ニ居シ右琴左書自ラ  
 樂テ厭ハス一朝公事榮赴スルニ及ヒ  
 翼ヲ東征ニ奮フ是平素國家ノ器用ヲ  
 懷抱スルノユエシナリ謹テ賀忱ヲ表  
 ス希クハ笑納セヨ

復啓

不佞ハ乃チ罷歸ノ布衣ナリ自ラ卑野  
 ニ長シ菲才大事ニ任ルヲ能ハス諺テ  
 文衡ノ選ニ興ル是レ萬カ一ツヲ僥倖

▲委任状書式

委任状ノ事  
 拙者ノ部理代  
 人トシテ左之  
 權限ノ事ヲ貴  
 殿へ相任セ代  
 理相頼候事  
 一何々ノ事  
 右代理委任状  
 如件

スル耳賀セラル、ヲ蒙リ拜謝々々

慰教仕人文

手來り少立官達

今一々位を昇給

と殿は退職

月台大盤卷之一

何く

年月日何誰印

何誰殿

▲区内辨合書

式

引合書

住所

原告人誰

一何々々引合書

吾聞之者下

多振る古人

有之是之

今更之

嘆侍

住所

被告人誰

右ノ者ニ係リ

何年月日云々

ノ件ニ付度々

係合ニ及候得

共難埒明不得

止出訴仕度可

相成ハ下濟取

計具候様被告

一毫送呈侍

納取仰

同

足下久シク要路ノ人ナリシカ聞ク冠  
ヲ弾テ梓里ニ皈ルト是レ陶潛ニ非レ  
氏三徑ノ松菊正ニ存スルモノナリ俗  
務ヲ脱却セラレ上ハ是レ余カ一ツ  
ノ真友一函ノ風月半庭ノ梅花詩句ヲ

人匠内へ御係  
合被下度此段  
厚ク御願出申  
候也

年月日 誰

右同區

戸長衆

前書之通申出  
候間此段及御  
引合候本人御

敵テ共ニ壺中ノ天ヲ樂ン

其多

小生勇退与尔益

萬徒把刀筆ハ既

萬徒把刀筆ハ既

取糺ノ上可相  
成ハ下濟御取  
計被下度若不  
行届ニ候ハ、  
無執原告人存  
意ニ任セ可申  
候依而否哉奥  
書御調印有之  
度候也

何大小區

毒三年解何切也  
成爲之告休帰仕  
以 然交洋酒一在  
送了ふ多御謝  
同  
不肖久シクニ親ヲ捨テ徒ニ斗米ノ為



戸長

何大小匠

戸長衆

▲諸典行願届

淨瑠璃演習

御願

一私宅ニ於テ

本日午后何時

ヨリ何時迄隣

家ノ者打寄素

メニ腰折スルヲ茲ニ三年過リ職事ヲ  
退テ皈ル自今心ヲ風月ニ寄セ優游身  
世ヲ度ント欲ス幸ニ雅兄貴臨セヨ共  
ニ半軒明月ヲ談スヘキモノナリ

老人帰省文

久居在東京久矣

寂然常旋自由

人淨瑠璃替古  
凌仕度尤坐料

一切受不申候

付此段御届申

上候也

何、、、

年月日誰

右戸長

何、、、

老父望望祝賀

与多蒙与少幸慶

不之送与感荷

少少更内侍与好

有分谢与任

御談真行御願

▲軍談真行御願

願  
一今般何大小  
區何番地ニ於  
テ来ル何日ヨ  
リ何日ノ間軍  
談真行仕度尤  
御布令ノ御趣  
意此度相守可  
申候間御詳容

同

聞ク足下萬里ノ秋風ニ飯心ヲ促サレ  
昨日東京ヨリ印綬ヲ佩テ榮旋スト慈  
親定テ忻喜ナケラン余モ亦喜ヒ眉宇ニ  
溢ル今一誠ヲ裁シテ飯勞ヲ候フ

其也

久方江門有胡濤也

被下度此段奉  
願上候也

何  
年月日 誰

右戸長

何  
▲説教會坐神  
届

一私宅ニ於テ

隔多愛時良也又衰

弱是此海也既屬

寧家信々糸押而告

休休長々多免物者

傳以交々情誼也

御談真行御願

月台文盤卷之一

日...

日...

明日午後何時  
ヨリ何時マテ  
神官又ハ教導  
各宗ノ職何誰ヲ頼  
説教會坐取設  
ケ度候間此段  
御届申上候也  
何  
年月日 誰  
其区内

加勢一被出登向多  
多謝！ 解好肩有可散  
蓄時也  
同  
不俟久シク官海ニ沉没シテ徒ニ累々  
ノ歳月ヲ荏苒シ 郷園ニ皈寧セサルト  
コ口這般公暇ヲ得シニ因リ久瀾ノ知

戸長衆  
懋役場へ差  
入物御願  
一何品  
一何  
右ハ何月幾日  
ヨリ懋役又ハ  
民事訴訟ニ付  
檻倉留置等罷

已ニ會遇セムト欲シ則馬ニ策テ飯リ  
来ル唯恨クハ飯来節晚クシテ菊花東  
籬ニ老ヒ詩句ノ雅興少キヲ  
此以商業赴横濱  
此以商業赴横濱  
由是是中  
六十七

...

...

六十七

在候私シ夫ト又ハ親ト屬ハ  
 又ハ某書面品  
 友入差入申度奉  
 存候ニ付此段  
 奉願上候  
 何ク  
 年月日誰  
 前書之通申出  
 候ニ付奥印仕  
 候

貴家ノ御少シニ  
 御儀ニ御進ニ手  
 中ニ御進ニ手  
 船中ニ御進ニ手  
 之ノ御願ニ

右區戸長

誰

何ク

▲懲役満期御

受書

一私画内何誰

不埒之儀有之

去ル何月幾日

ヨリ懲役幾十

日御申付相成

同

聞キ得タリ横濱ノ行明爽ニアリト談  
 地ハ碓陽函館ニ異リ外國人モ目ヲ逐  
 テ居館ヲ構ヘ其市陌ノ繁昌ナル商事  
 亦從テ盛大ナラシム君カ此行早ク吉利  
 ヲ得テ飯ヲン一ヲ折望ス因テ聊カ臆  
 意ヲ呈ス晒納是幸イ

其々

居候処満形ニ  
付本日引渡被  
成下正ニ受取  
以後心得違無  
之様私共ヨリ  
教示相加身介  
為相慎可申候  
依テ差上申御  
請書如件  
何、

以商業校度表  
越、為、中  
多、以、惠、一、上  
併、久、以、留、滞、一、在  
經、一、旬、解、泊、國、之

年月日 戸長 誰

何、

▲町村 預ヶ御

受書

何大小 何

番地

誰

一右之者御糾  
問中御預ヶノ  
儀奉願上候処

積、久、以、預、以、解、泊、國、之  
宛、投、函、を、謝、

同

贈儀トシテ烟惠ヲ蒙リ謝々僕今度ハ  
洋人某へ商用アリテ横濱行ヲ為サン  
トス飯期恐クハ東台花開クノ節ニ及  
ン唯願クハ老基千金自重セヨ

願之通私ニ御  
預ケ被置正ニ  
奉預候然ル上  
ハ本人宅ニ於  
テ嚴重為相慎  
御用之節ハ何  
時成共召連罷  
出可申候御預  
ケ中万一遊込  
等仕候節ハ御

此湯治人文  
有言温泉之湯治  
道之如痛而速  
快益下可少治  
モ家之如少何速

法律ヲ以テ御  
科可被仰付候  
其際ニ至リ決  
シテ申訊仕間  
敷候因テ御預  
証文差上申処  
如件

何大小區  
戸長  
年月日 誰

字彙心寫

明治文盤卷之一

七十

如斯

同

尊下微恙アリト聞キシカ治養トシテ  
熱海温泉ニ赴カルト夫レ温泉ノ功  
アルヤ自ラ審ニス痛莫痊回シテ飯縣  
アラシク勉メテ浴湯スヘシ

其の如

御裁判所  
 ▲耕牛市御願  
 一私儀農商業  
 餘暇ニ牛商人  
 共相集耕牛市  
 仕度御布令ノ  
 御趣意屹度相  
 守可申候間御  
 許容被成下度  
 此段奉願上候

此後任醫師之  
 圖之温多入湯  
 治付之痛如珠  
 外快之宜乎平  
 一七〇餘為伯  
 同

何々  
 年月日區戸長

何々  
 ▲奉職中看病  
 御願

一私父或ハ母  
 何誰儀久ク癩  
 症ニテ平臥罷  
 在候処此節頗  
 ル危篤難見放

以付、預借向  
 謝

同  
 治療ノ為メ熱海温泉ニ赴キ病根ヲ除  
 却セシト欲スニ七ノ光陰ヲ期シテ飯  
 ル家事願クハ高念ヲ下シ賜ヘ

借書以稽又

趣唯今電報有  
 之候間往返日  
 数外五十日間  
 既省看病仕度  
 此段奉願上候  
 也  
 年月日誰  
 某長官宛  
 商船入港御  
 届

由勉強飲養るに色  
 日中清話の事民  
 法并訴以控要口恩  
 借り橋の由秘庫  
 書ヲ繕と長均在  
シヨモツ

西洋形又  
 ハ日本形  
 一船名 何号  
 何國何所  
 船主 誰  
 積石 何石  
 乘組 何人  
 積荷 何品  
 右者何月幾日  
 何國何港出帆

僕為一藩の外に許  
 他視速還原付糸  
 中辰日依教下上迄  
 同  
 秘庫ノ明治文鑑一見ヲ遂ケ若クハ購  
 求セムト欲ス願クハ恩貸セヨ直チニ  
 持趙スヘキナリ

明治文鑑卷之二  
 七十一



仕候処本月幾  
口當港へ着船  
仕候間船税鑑  
札其港御政所  
ノ御副書共荷  
物送り状相副  
此段御届申上  
候也

年月日 誰  
某役所当

其意

由依頼之書籍何

等容易の事と云

不<sub>三</sub>敢拒<sub>二</sub>之<sub>一</sub>意<sub>二</sub>指出<sub>一</sub>

し<sub>二</sub>得<sub>一</sub>之<sub>二</sub>由<sub>一</sub>清<sub>二</sub>観<sub>一</sub>不

▲洋行御願

今般私儀洋学  
研究或ハ商法  
学修行仕度候  
ニ付金港ヨリ  
太平海飛脚船  
へ乗組英電動  
へ渡り實驗ノ  
上歐洲ヲモ經  
歴致度依之日

苦

同

任<sub>二</sub>来<sub>一</sub>論<sub>二</sub>明<sub>一</sub>治<sub>二</sub>文<sub>一</sub>鑑<sub>一</sub>一<sub>二</sub>部<sub>一</sub>ヲ<sub>二</sub>贈<sub>一</sub>進<sub>二</sub>ス<sub>一</sub>此<sub>二</sub>ノ<sub>一</sub>書  
元<sub>二</sub>ト<sub>一</sub>初<sub>二</sub>学<sub>一</sub>ノ<sub>二</sub>為<sub>一</sub>メ<sub>二</sub>ニ<sub>一</sub>設<sub>二</sub>ク<sub>一</sub>ル<sub>二</sub>書<sub>一</sub>ニ<sub>二</sub>シ<sub>一</sub>テ<sub>二</sub>文<sub>一</sub>  
章<sub>二</sub>雅<sub>一</sub>俗<sub>二</sub>ヲ<sub>一</sub>交<sub>二</sub>シ<sub>一</sub>エ<sub>二</sub>加<sub>一</sub>ル<sub>二</sub>ニ<sub>一</sub>紀<sub>二</sub>事<sub>一</sub>公<sub>二</sub>用<sub>一</sub>文<sub>二</sub>等<sub>一</sub>  
日<sub>二</sub>用<sub>一</sub>必<sub>二</sub>須<sub>一</sub>ノ<sub>二</sub>モ<sub>一</sub>ノ<sub>二</sub>ヲ<sub>一</sub>乘<sub>二</sub>セ<sub>一</sub>シ<sub>二</sub>者<sub>一</sub>ニ<sub>二</sub>メ<sub>一</sub>願<sub>二</sub>ル<sub>一</sub>  
便<sub>二</sub>利<sub>一</sub>ヲ<sub>二</sub>覚<sub>一</sub>ユ<sub>二</sub>乃<sub>一</sub>チ<sub>二</sub>後<sub>一</sub>者<sub>二</sub>ニ<sub>一</sub>托<sub>二</sub>ス<sub>一</sub>願<sub>二</sub>ク<sub>一</sub>ハ<sub>二</sub>領<sub>一</sub>  
セ<sub>二</sub>ヨ<sub>一</sub>

数凡何百日之  
間洋行券御下  
渡彼下度此段  
奉願候也

何、

年月日何誰

何、

▲既朝御届

一私儀去ル何  
年何月何日ヨ

送筆文

研宥多祝、進

書不珍物、他

亦多、菱湖用

リ日数何百ノ  
間理化学研究

ノ為メ英電動

ハ渡實驗ノ上

歐洲經歷仕本

年幾日既朝仕

候依之此段御

届申上候也

年月日

何誰

筆ニ校進呈傳

家近、用、女

之、素、懐、

同

頃口友人某ノ許ヨリ南都某堂ノ結筆  
数軸ヲ贈リ到ル僕試ルニ甚夕良善ナ  
ルヲ覺フ由ツテ一對ヲ呈贈ス宜キク

何ニ  
▲学費金献納

御願

當府下各所開  
校教育之道相  
立万民ノ慶福  
不遇ノ奉拜祝  
候艸莠之老臣  
逢此盛世不学  
ニシテ於國家

一場ノ風月ヲ揮掃ス可シ

其の

雜獲  
好筆  
蒙  
魚

投  
多  
謝  
此  
束

一事無裨益真

ニ此終朽果候

モ遺憾ニ奉存

候因テ為後学

生徒助力カ少

分金何円近境

諸学校へ差出

方今必需之書

藉等購求為社

度奉存微衷之

学志必携

月台文藝卷之一

七十五

去々通少生 元束

秀筆筆塗 鴉 伝る色

くまのくまを習字研

完此稿 5 伝 幸

以送物 深 或 謝 之

皇朝第一之御  
國産ニシテ殊

程御洞譽被成

下度此段御聞

届奉願候也

何府縣族藉

區町名番地

年月日誰

何發明器械專

賣御願

奉糸ノ儀ハ

玉

同

美筆ニ枝ヲ送ケレ感佩々々命ノ如ク

書家モ良筆ナクンハ其用ヲ欠ク不佞

ノ如キ拙字塗鴉ヲ作スモノハ尤モ流

弊ヲ忌ム南都ヨリスルノ美筆懇懇セ

ケレ深ク秘々シテ唯騷客アルノ時ニ

供ス

# 借金子文

日々吉吉利利

拙者之殿与洋人某

系角石延了要資本

大丸六の糸ドルと云

ロクメンエン

皇朝第一之御

國産ニシテ殊

七十六

皇朝第一之御

國産ニシテ殊

二近来輸出モ

盛大ニ相成ル

処何分製品粗

拙ニテ自然死

費不少ト奉存

候巧妙簡便之

新器發明仕度

日夜精神ヲ凝

シ漸ク此程假  
 離形連続軌  
 機閉落成試験  
 仕度処一以當  
 千候様被存候  
 御検査之上實  
 効顕然ニ候ハ  
 、專賣許可奉  
 願上候也  
 何府縣

ニ焦慮を以て是  
 等事を知契且一  
 冬より以列ニ弟  
 何号  
 玉三銀行商社  
 同

族籍

何区町名

年月日 誰

何、

▲電信技術生

徒入寮御願

一私儀兼而電

信技術志願ニ

付今般入寮修

業仕度候間御

字律必携

明治文藝者之一

七十七

盟財を以自由依  
 六弟ドル市貨返  
 從候お付百委  
 至尚し抵当指  
 利子勿漏おか

字位...

試驗ノ上御許  
可被成下度此  
段奉願候也

何々族籍  
何大小區  
何誰長次男又ハ兄弟厄ハ  
宿所何大小區  
何町何番地  
年月日 誰  
電信頭誰殿

此取乃由依頼也

同

商業利ヲ失シシヤウシ小肆近頃用ヲ欠ク足下  
游金アテハ幾円下附セラレシトテ祈  
ム一月ヲ期シ約ヲ違ヘス奉壁センノ

其...

前書某御試験  
ノ上入寮御許

容被成下度最  
御規則之趣遵  
奉可為致ハ勿  
論身元之儀於  
私終始引受申  
候自然事故有  
之退寮願出力  
又ハ規則ヲ犯

兼之と取与洋人某

高業取組申杯

加々々々資也

其取乃由依頼也

其取乃由依頼也

字位...

明治文藝卷之一

七十八

学位... 明治... 第一

シ免職相成候  
節ハ本人ニ関  
ン候学費金都  
テ償納可仕候  
依テ保状如斯  
候也  
肩書本人同シ  
年月日誰  
電信頭宛  
巡査志願書

冬五場出利  
貯蓄し遊金  
併家指出し  
系証書以持系  
待

私儀當管下巡  
査職奉勤仕度  
御檢査奉願候  
也  
何  
何候籍  
年月日 志願人 誰  
年  
右保証人 誰

同  
商業利ヲ失セウレ金子用ヲ欠ク由  
幸ニ吾会一貯ス敬テ尊伴ニ附シテ  
子下ニ供ス倘シ高肆ノ用ヲ為ハ留用  
何ソ妨  
某田文  
福文

幸... 月... 七十九

前書之趣相違  
無之候奈真印  
如此候也

右戸長

誰

何、、、

▲入学御願

何、、、

何号地  
男身  
女身  
誰

蓋此所祈祥大候、  
以二千日於故廬  
某會亦僅魚、酒一  
杯獻上仕、五年後身  
一時、、、此相、加、、、

右之者本日ヨ  
年

り談、、、小学校  
へ為、致、入学度  
就而ハ、校、堂、ノ  
御規則嚴重ニ  
為、相、守、決、シ、テ  
違、背、不、申、候、間  
此、段、奉、願、候、也  
何、、、

仰

同

移、文、呈、研、明、外、日、ハ、敝、屋、ニ、某、會、ヲ、開、設、  
ス、例、ニ、從、テ、午、后、一、時、ヨリ、玉、駕、ヲ、枉、ケ、  
ヨ

乞、新、可、速、送、文

郵、便、恐、呈、各、位、益



右父兄

年月日 誰

ガクムク  
学務課御中

▲講習御願

何、

族籍

誰

年

今般私学開業

仕度候ニ付小

多分社も考へて来

社新設紙、西字印刷

い、仕立する翁嬢

婦女易讀も益不

少因之披之世に

学教則御教校

被成下度依之

此段奉願候也

年月日 誰

何、

族籍

証人 誰

何府縣

師範校

御中

此定價通一月

前金七十支り出

し、糸明紙の便送

を、

貴社同  
貴社発況ノ頼才新誌百五号ヲ友人某

▲教導團入學

願書式

何國何郡何所  
産、住  
何府縣何族平民

姓名

年月

右之者此度教  
導團へ入學奉  
願候間御檢査

家ニテ拜閱ス篇中奇々傑々此新誌ヲ

見テ余々如キ頑極ハ其知見ヲ開進ス

亦方今文運ノ隆盛ヲ知ルヘキナリ之

ニ因テ本月ヨリ閱見セント欲ス發兌

アル毎ニ郵送セウレシムテ祈ル

弔文

誰れ  
誰れ  
平素  
疾  
病

ツ子

コヒヤウキ

ノ上御採用被  
下度固ヨリ入

團ノ上ハ御規

則嚴重ニ為相

守可申且又当

人身上ノ儀ハ

何事ニヨラス

私共引受可社

依テ此段奉願

候也

之安直保養有付

之安直遊以死志

由子實終之之

之憾也

脊厨咄也

身元引請人  
何、

年月日 誰

陸軍教導團

御中

前書之通願出

候ニ付進達仕

候也

何府縣

戸長誰

身元引請人  
何、

年月日 誰

陸軍教導團

御中

前書之通願出  
候ニ付進達仕  
候也

同

何府縣  
戸長誰

何府縣

戸長誰

年月日  
破泊御願  
風潮之不順ニ  
ヨリ一時無余  
儀入港シ二十  
四時間以上破  
泊スル者ハ其  
港船政所へ届  
書ヲ差出スヘ  
シ

口聞ク昨夜奄然トシテ世ヲ去ルト哀  
痛極リ罔シ然レ死ハ人ノ恒トスル  
トコロ追悼スレ及フナシ願クハ  
過傷スル勿レ聊カ微奠ヲ奉シテ祭敬  
ヲ表ス

其子

其子病氣之憂

一船名何丸  
 船形日本形又西洋形  
 積高何石  
 船主何誰  
 乘組何人  
 積荷目錄通  
 船客何人  
 右ハ去ル何月  
 幾日何港出帆  
 何々港へ趣ク

匡々藤之舟逆舟  
 船政賜也悔之夫  
 去之係之志悉  
 次有之孰之悲  
 少家之由之志

積ノ処何沖ニ  
 テ難風差起去  
 幾日當港へ破  
 泊仕風潮ノ便  
 宜次第出帆可  
 仕卜存候依之  
 手数料幾何破  
 泊税幾何上納  
 此段御届申上  
 候也

明氣堂此礼下  
 上之也  
 不幸ニシテ忽チ家父ノ死變ニ係リ千  
 里米ヲ負フノ志ヲ欠ク慟哭心ヲ傷メ  
 唯孤ヲ守ル耳此ニ厚賻ヲ蒙リ涙筆悵  
 々謝心ヲ盡サス

船政賜也

月台大船政賜也

何丸船頭

年月日誰

何港

船改所

御中

▲服忌御届

一私<sup>父</sup>弟<sup>母</sup>等<sup>兄</sup>何

誰<sup>儀</sup>何月何日

死去依<sup>テ</sup>尤之

通忌服相請申

靈祭振一族文

本月廿一日

又十年祭

係魚酒一杯

獻上仕度日只

候

何月日ヨリ

忌何月日迄

服何日同上

也

何府縣出仕  
又ハ等外

年月日誰

某長官宛

▲辭職御願

私儀何年何月

貴息方白道

此迄車車形

何後母境

及子取園口集

あや

ヨリ当府縣へ

在勤罷在候処

何病ニテ出勤

仕兼候間辞職

仕度依レ之別紙

医業相副此段

奉願候也

何府縣出仕

年月日 誰

某長官宛

同

本月某日ハ祖先幾年ノ祭祀ニ相當ス

同日ハ親屬ヲ招キ近隣ヲ呼ヒ詩歌ノ

追筵ヲ開テ以テ招魂ノ式ヲ行ハント

欲ス貴兄闔門ノ一列ニアルニ因テ同

日ハ家眷同携追祭ノ佳作ヲ題セウレ

ンテ光駕ヲ待ツ

シテ光駕ヲ待ツ

其宛

▲金貸借用証書

記

一金 但利子

右之金子拙者

入用ニ付証人

立會ノ上借用

申処實正ナリ

然ル上ハ約定

ノ通来ル何年

東古下百石の借入

の金 但利子

右之金子拙者

入用ニ付証人

立會ノ上借用

字在必推

明治文鑑卷之一

何月何日限り

元利共無相違

可致皆済候万

一遅滞候ハ証

人之ヲ引請必

ス可致返却候

為後日証如件

年月日 借主

証人

何誰

及以報也

同

貴家ノ祖父幾年ノ祭祀ニ當リ其祭日

ハ詩歌ノ追送ヲ開カルト余モ亦拙

吟ヲ辨シテ以テ追祭ニ赴カン

學徒 明治文鑑卷之一終

